

取材日：2019年9月17日



糖尿病



長崎県

## 長崎地域糖尿病療養指導士育成のため『キャラバン隊セミナー』がスタート！

### Point of View

- ① 長崎県独自の長崎地域糖尿病療養指導士 (LCDE-Nagasaki) 認定制度を創設
- ② LCDE養成のための『基礎講座』や『スキルアップセミナー』をウェブで配信
- ③ LCDE取得を推進すべく地域へ出張しての『キャラバン隊セミナー』もスタートさせる

地方独立行政法人  
佐世保市総合医療センター  
糖尿病・内分泌内科診療科長  
**山崎 浩則**先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
先進予防医学共同専攻  
内分泌・代謝内科学分野准教授  
**阿比留 教生**先生

医療法人喜多内科医院  
院長  
**喜多 篤志**先生

日本赤十字社長崎原爆病院  
内分泌・代謝内科部長  
**藤田 成裕**先生

長崎大学病院  
生活習慣病予防診療部  
副部長(講師)  
**鎌田 昭江**先生

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
離島・へき地医療学講座  
(離島医療研究所)助教  
**野中 文陽**先生

### 意欲ある誰もが取得できる LCDE-Nagasakiを創設

長崎県では2018年、長崎地域糖尿病療養指導士準備委員会が、地域糖尿病療養指導士養成のため、独自の長崎地域糖尿病療養指導士認定委員会(以下、委員会)による認定制度(LCDE-Nagasaki)を創設。さらに、地域での療養指導の質の向上と、その輪を広げるべく、2019年から地域に出張しての『キャラバン隊セミナー』をスタートさせたという。

長崎大学大学院准教授で委員会の会長を務める阿比留先生に、まず、LCDE-Nagasaki(以下、LCDE)創設の経緯を聞いた。

「2001年から、日本糖尿病療養指導

士(CDEJ)の資格認定が始まりました。しかし、CDEJは糖尿病専門医が在籍する医療機関の限られた職種のみ取得できないため、離島なども多い長崎県では、糖尿病専門医の不足により、たとえメディカルスタッフが希望してもCDEJを取れない状況が続いていました。

このままでは増加の一途をたどる糖尿病患者が、専門医の診療はもちろん、適切な療養指導さえ受けられないままであり、これは大きな問題と考え、独自のLCDEを創設することにしました」(阿比留先生)

同県のLCDEの独自性は、その受験資格にある。受験できる職種はかなり幅広く(【資料1】)、所属施設



左から山崎先生、阿比留先生、喜多先生、藤田先生、鎌田先生、野中先生

にかかわらず、医療、保健、介護の業務に2年以上従事していれば、受験資格を持てる。つまり受験資格の門戸を広げ、意欲がある人ならば、どんどん糖尿病の療養指導ができる人材として地域で活躍してもらおうというわけだ。そして、この委員会のねらいは、見事の中した。「2018年に初めてのLCDE認定試験を実施し、78名の1期生が誕生しました。2期の試験では67名を認定。対馬から10名など、離島の方々も取得しています（【資料2】）」（阿比留先生）

日本赤十字社長崎原爆病院内分泌・代謝内科部長で委員会の副会長を務める藤田先生は、LCDE認定者の職種を見て想像以上の反応の良さに驚きを隠さない。「保険薬局の薬剤師や歯科医院の歯科衛生士などの多さには驚きました（【資料3】）。CDEJが取れない職種の方のLCDEに対する確かなニーズを感じましたね」（藤田先生）

### それぞれの地区で異なる LCDEを取り巻く現状

離島が多いうえ、本土も南北に長い長崎県では、当然ながら、地区によってLCDEを取り巻く状況は異なってくる。

佐世保市総合医療センター糖尿病・内分泌内科診療科長の山崎先生は県北地区の事情に詳しい。

【資料1】

### LCDE-Nagasakiの受験資格

以下のすべての項目を満たしていることが必要

- ▼糖尿病の療養指導に意欲のある者で、以下のさまざまな職種の方  
看護師、准看護師、管理栄養士、栄養士、薬剤師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、健康運動指導士、歯科衛生士、介護スタッフ、社会福祉士、介護福祉士、臨床心理士、医師、歯科医師のいずれかの資格を持つ者、または行政の担当員
- ▼施設に関係なく医療・保健・介護の業務に2年以上従事している

出典：LCDE-Nagasakiウェブサイト

「専門医不足の県北ではLCDEの養成は急務ですが、増やそうにも、資格そのものの認知度が、まだ低いのが現状です。

なんとかメディカルスタッフを優先的に対象としてアナウンスを強化したいと思っています。メディカルスタッフ向けの定期的な勉強会が動いていますので、そこを活用することになりますが、県北は広いので、局所のアナウンスにとどまらないようにしないといけないと思っています」（山崎先生）

島原地区は離島ではないが、長崎市から約50km離れた半島で、へき地に近い。喜多内科医院院長の喜多先生は、この地区で数少ない糖尿病専門医のひとりだ。

「島原地区でも、専門医の数は少なく、CDEJを取得している人は数名。LCDEは、少しずつ増えているもの

の、まだ少ない状況です。

ただ、島原地区では、地元医師会や行政がLCDEの取得推進に協力的で、存在をアナウンスしやすい環境にあります。したがって、今後は、LCDEのアピールと、取得に向けた学習の場の提供に力を注いでいきたいと思っています」（喜多先生）

長崎市からおよそ100km離れた離島で構成される五島地区は、糖尿病診療においても、都市部との地域格差が特に大きい。長崎大学大学院離島医療研究所助教の野中先生は、そんな五島市の中核病院である長崎県五島中央病院に2018年から常駐している。

「現在、五島地区で糖尿病専門医は私ひとりです。そこで私は、糖尿病のチーム医療を広めるために、有志による『糖尿病回診チーム in 五島』と称するチームを結成し、病院でスタッフ教育をするかたわら、講演活動などを行っています。

チーム医療が円滑に行われるにはLCDEの養成が有効なのは言わずもがなですが、他の地区同様、周知の状況がまだまだ。LCDEを広める活動を積極的に行っており、今年五島地区から13名のスタッフがLCDE取得をめざしています」（野中先生）



## 各地へ赴いての出張セミナー『キャラバン隊セミナー』発進

LCDEの周知や、取得のための学習の場が求められている現状を踏まえ、委員会がスタートさせたのが、キャラバン隊セミナー（【資料4、5】）だ。

委員会では、LCDEの養成を目的に『基礎講座』や『スキルアップセミナー』をウェブで配信してきた。それらは、さまざまな地域で勤務する人にとって利用しやすいが、ウェブを介したセミナーだけでは、互いの顔が見えないので、LCDEの訴求力に欠け、高い学習効果も期待できないのではないかと意見が多々あったという。

「それらの問題解決に向け、意見交換を重ねた末、委員会のメンバーが地域へ出ていくしかないとの結論に達し、キャラバン隊セミナーが誕生したのです。

そして、第1回セミナーを長崎県五島中央病院で、第2回セミナーを壱岐にある壱岐の島ホールで開催しました」（阿比留先生）

## 教科書的な内容ではなくより実践に役立つセミナー

キャラバン隊セミナーの特徴は、教科書的な内容ではなく、より実践に役立つことを重視している点である。阿比留先生が、具体例を挙げて解説してくれた。

【資料4】

## キャラバン隊セミナーのチラシ

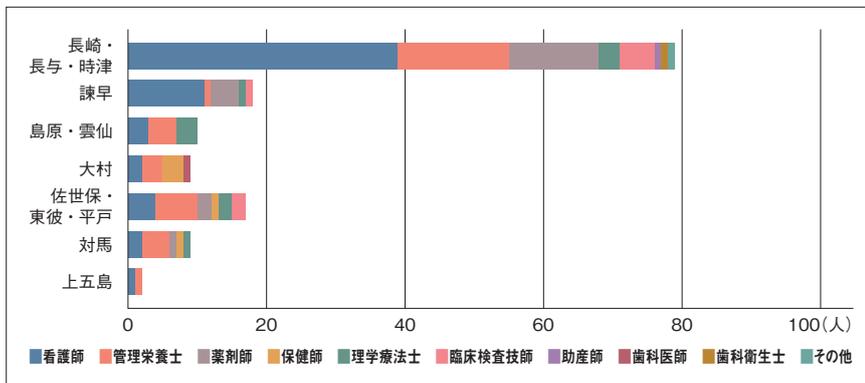
日時	2019年6月30日(日) 9:00~15:30		
場所	五島中央病院 2階会議室		
会費	2000円 (会員の方には、単位費(3単位)を発行いたします。)		
タイトル	内容	時間	講師
総論	糖尿病とはなんだ?	9:00-9:30	藤田成裕
薬物療法指導	これぞわかった糖尿病薬!	9:30-10:10	野中文陽
食事療法指導	食事療法を極める	10:20-11:00	塩電由紀子
運動療法指導	明日から始める運動療法!	11:00-11:40	阿比留敬生
昼食休憩(11:40-12:30)			
日常生活指導	低血糖・シックデイ・フットケア	12:30-13:10	富永玲子
手技/実技	やってみよう注射・血糖測定!	13:10-14:00	山下理恵 森 明子
コーチング	患者さんの心をつかむ3つのポイント	14:00-15:15	鎌田昭江
事務連絡	LCDE-Nagasakiからのお知らせ	15:15-15:30	村川 香

主催：長崎地域糖尿病療養指導士認定委員会  
共催：長崎県糖尿病対策推進委員会

出典：阿比留先生提供資料

【資料2】

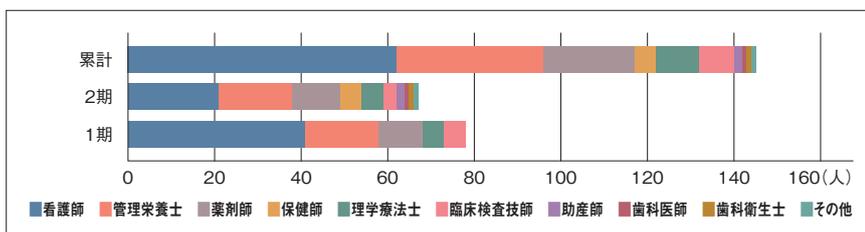
## LCDE-Nagasaki認定者の地域分布(1期+2期)



出典：LCDE-Nagasakiウェブサイト

【資料3】

## LCDE-Nagasaki認定者の職種別人数



出典：LCDE-Nagasakiウェブサイト

「たとえば、『総論：糖尿病とはなんだ?』では、定義や数値などに関する説明はほとんどしません。『患者さんが初めて糖尿病だと言われたらどう感じるか』、『医療者は患者さんにどう伝えたらいいか』といった実践的な話がメインです。

『運動療法指導』でも、どれくらいの脈拍数で運動すべきかというより、『どうしたら運動療法をやる気にさせられるか』が講義の中心になります」（阿比留先生）

長崎大学病院生活習慣病予防診療部副部長の鎌田先生は、阿比留先生の話にうなずきつつ、第1回のセミナーで「コーチング：患者さんの心をつかむ3つのポイント」の講師を務めたときのことを振り返る。

「コーチングは対話法の勉強ですので、実際に参加者が患者さん役と指導者役になり、ロールプレイをしてもらいました。こうしたロールプレイを行った経験がある人は少なく、最初は戸惑いも見られましたが、慣

れてくるにつれ対話が盛り上がっていくのを実感できたのではないでしょうか」(鎌田先生)

第2回のセミナーで「総論」を担当した山崎先生も、翌日から実施できる具体的な話をするよう心がけたと語る。

「糖尿病の患者さんに療養方法を伝える重要性はわかっているけど、どのように説明すればいいのかわからないと感じているメディカルスタッフが多いようです。そこで、患者さんと経験を積んだ医療者の間で交わされる会話をお手本として提示しながら、患者さんの心を動かせるアプローチ方法について、わかりやすく説きました」(山崎先生)

2回開催された各回のキャラバン隊セミナーには20名ほどが参加、終了後のアンケートでは8割5分が「たいへん満足」、1割強が「満足」と高い満足度を示した。今後は、島原と対馬での開催も決まっている。

## LCDE取得者を増やして 長崎の糖尿病医療を変える!

LCDE認定制度やキャラバン隊セミナーは、始まったばかり。各先生に、今後に向けた取り組みや期待を

【資料5】

キャラバン隊セミナーの様子



出典：鎌田先生提供資料

語ってもらった。

「薬剤によって一度は血糖値が改善しても、生活習慣が改善されないとまた、すぐに悪化します。悪化して紹介されてくる患者さんを診るたびに、チーム医療や患者さんとの対話に興味を持ち、LCDEの重要性を理解する非専門医がひとりでも増えてほしいと願わずにはいられません。」

LCDEを取得して生き生きと活動するメディカルスタッフを増やすことで、医師の意識改革を促せればと思っています」(鎌田先生)

「離島でもLCDEの基礎講座やキャラバン隊セミナーなどを受講できるようになったので、メディカルスタッフにLCDEの取得をすすめてくれる医師を増やしていきたいですね」(野中先生)

「LCDEがある程度増えてきたら、各地区でLCDEが中心になり、地区の状況に合った糖尿病診療に関する企画を立て、医療・福祉従事者が一丸となって活動するようになってくれば理想的です」(喜多先生)

「LCDEの認知度が上がり、かかりつけの先生方や保険薬局の薬剤師、保健師、介護士といった職種が糖尿病についての知識を持って治療や療養指導を行うようになったなら、私たち専門医とより効率的に連携した糖尿病診療が可能になるでしょう」(藤田先生)

「たとえば、『インスリン注射療法は用量調節や低血糖指導などに慣れてないので遠慮したい』とおっしゃる地域の先生方も中にはいます。そこで、もし、その診療所の看護師が勉強してLCDEを取得して、インスリン指導ができるようになれば、先生方も安心してインスリン注射療法を推進してくださるのではないのでしょうか。どの地域でもあることですが、地域全体の糖尿病診療の底上げ

のためにもLCDEは貢献すると思います」(山崎先生)

阿比留先生からは、主として広く長崎県全土の読者にメッセージをいただいた。

「キャラバン隊は、離島に限らず、参加者が10名程度以上集まれる地域や職場であれば、どこにでも出張してセミナーを開きます。」

ニーズのあるところを意欲的に巡回する方針ですから、ぜひ声をかけてください！」(阿比留先生)

LCDE認定制度やキャラバン隊セミナーによって、長崎県の糖尿病医療は大きく変わっていきそうだ。

### 地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター

〒857-8511  
長崎県佐世保市平瀬町9-3  
TEL：0956-24-1515

### 長崎大学病院

〒852-8501  
長崎県長崎市坂本1-7-1  
TEL：095-819-7200

### 医療法人喜多内科医院

〒855-0802  
長崎県島原市弁天町2-7389-1  
TEL：0957-62-5101

### 日本赤十字社長崎原爆病院

〒852-8511  
長崎県長崎市茂里町3-15  
TEL：095-847-1511

### 長崎大学大学院離島医療研究所

〒853-0031  
長崎県五島市吉久木町205  
長崎県五島中央病院内  
TEL：0959-74-2673